〈編集後記〉

緑ケ丘中町７の10

琵琶湖が昨年ラムサール条約に登録されたのを記念して，本号はその特集としてみた。そこに至る経過などを，当時の滋賀県自然保護課課長（現環境庁長官官房秘書課）の森谷さんに書いていただき記録にとどめることにした。あわせて，あまり一般の人の目にふれることのない，ラムサールの認定証を無理を申し上げて口絵にお借りできた。特集の中心は，日本学術会議自然保護研究連絡委員会が主催して、昨年12月14日に東京の学術会議場で開かれたシンポジウム「湿地の保護とその賢明な利用―ラムサール条約の現状と課題―」の報告の形をとらせてもらった。湿地関連として，ポーランドのディルチュ教授にはヨーロッパの河川及びその周辺にすむ鳥類について日本で講演された内容を書き下ろしていただいた。

四手井会長には，本号にまたまた玉稿を賜った。小生の住んでいる街の名も「緑ケ丘」だ（すんまへん）。だが，周囲には幸いまだ本当の緑がたくさん残っている。

写真家の今森さんには，湿地にすむトンボのすばらしい写真をただでお借りした。わが国の第一線の動物写真家の写真で表紙を飾れたことに紙面をかりてお礼を申し上げたい（山岸哲）。